

# 令和元年度の管理運営状況 (東京辰巳国際水泳場)

指定管理者：オーエンス・セントラル・都水協・事業団グループ

大項目	中項目	確認項目	特にアピールしたい点(具体的に)、改善点等
状 管 理 状 況	適 切 な 管 理 の 履 行	施設・設備の保守点検	元年度は設備職員を手厚く配置し、適正に業務を行った。また、設備・機器の老朽化に伴う各種修繕、大会運営用備品の修繕、「スタート台修繕」、「防火シャッター修繕」、「屋根の柱脚部アスベスト無害化封じ込め工事」等76件、総額約30,056千円
		プール施設の管理	中央監視システムにより適宜、室温、水温及び遊離残留塩素濃度が保持されているか水質チェックを行っている。また、ライフガード部門では毎時、水温、PH値、遊離残留塩素濃度の水質検査を実施。水質検査のダブルチェック等により水質の保持に努めており、利用者から透明度が高い等、継続して高い評価を受けている。
		人材育成の取組み	5月、11月の長期休館期間を活用し、安全管理研修、コンプライアンス研修、外部講師を招いた接遇研修(障害者対応、英会話)、個人情報保護研修等8種類の研修を実施した。また、障害者スポーツ振興の知見を得るため、東京都障害者スポーツセンターを見学した。さらに受付スタッフについては、日々の業務内容の改善点について確認し情報共有を図るなどの取組を行った。
		施設の提供について	(1)日本水泳連盟等と緊密な連携を図り、大会開催時の時間外使用や柔軟な施設利用等を認め、関係者からは施設が使い易い、大会運営がやり易いと、好評を得ている。 (2)今年度は、新規大会として全国規模の「東京都OPEN2019」を誘致した。 (3)大規模大会の実績としては、水泳屋内競技全種目(競泳、水球、アーティスティックスイミング、飛込み)の日本選手権を当水泳場で開催。さらに国際大会としては、「FINAアーティスティックスイミングワールドシリーズ2019」、「FINA競泳ワールドカップ2019」を誘致し開催した。
	安全 性 の 確 保	防災への配慮・緊急時対策	(1)防災訓練は、消防計画に基づく自衛消防訓練を年2回行ったほか、休館中の取組として応急救護訓練を実施。また、当館の自衛消防隊が毎年参加している地元消防署主催の「技術審査会」に令和元年度も参加し、防火管理の技術向上を図った。 (2)館内のレストランと協定を結び、一時滞在施設として帰宅困難者への清涼飲料水(お茶等3,000本)の確保を独自に実施している。また設置自販機についても、災害時の飲料等の無償提供が可能。 (3)無料シャトルバスにドライブレコーダーを設置し、運行中の安全管理及び防犯性の向上に努めた。
事 業 効 果	利用 の 状 況	利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人利用者数 元年度の利用者数は46,520人。第10回東京都新型コロナウイルス感染症対策会議において示された方針により、2月27日から個人利用が中止となったが、過去5年間で最も多い利用者数となった。これは「映像によるワンポイントアドバイス」、「スイムチャレンジ記録会」、「飛込撮影サービス」等の利用者サービスを地道に続けてきたこと等によるものと思われる。</li> <li>団体利用稼働率 団体利用者数は499,849人、前年度から95,607人の増となった。プールの使用率は、メインプール91.5%(30年度96.7%)、サブプール86.6%(同95.1%)、ダイビングプール47.7%(同50.7%)であった。新型コロナウイルス感染防止に対応し、3月は開催予定のセントラルクラブ対抗戦、東京都マスターズ等、8大会が中止となったことによるものと思われる。</li> </ul>
	事 業 の 取 組	スポーツ振興事業の実施状況及び自主事業	(1)スポーツ振興事業 「着衣泳講習会」の参加率は58%となったが、その他は全て70%を超え、大きな事故もなく円滑に実施することができた。特に辰巳杯(競泳・フィン競技)は過去最高の延べ3,619人が参加した。更に、スポーツ振興事業の充実策として「スイムスキルアップ事業」の定員増や「親子ふれあいスポーツ観戦事業」に「バックヤードツアー」、「アスリートとのふれあい」などの企画をプラスし、スポーツへの関心を高め、スポーツを始めるきっかけづくりを目指した。 (2)自主事業 「こども水泳教室」をはじめ、全7事業を実施。1年ぶりの通年実施ではあったが、年度末の3月は新型コロナウイルスによる休講となった。参加者動向としては、年間新たに300余名の方々に入会いただき、退会された方も例年に比べ大巾に減少した。辰巳水泳場での教室という事が地域に認知され、期待されている結果と考えられ、概ね順調な開催となった。
		サービス向上に向けた取組み	(1)スポーツ振興事業の申込受付について、葉書による申込みの他、HPからも申込み出来るようにし、利便性を向上させた。 (2)令和元年度の利用者満足度調査においても、清掃状況の満足度が団体利用者84.3%、個人利用者86.5%だったため、特に更衣室の清掃徹底や「美化・清掃推進月間」を実施するなど利用環境の向上に取組んだ。今後も、更衣室については、清掃の態勢を見直すなど具体的な取組みを継続する。
		利用者ニーズの把握	(1)利用者懇談会や意見箱(「私の一言」)によるものの他、利用者満足度調査を実施した。団体利用者の「総合満足度」は現指定管理者体制で最高の98.2%であった。一方、個人利用者の「総合満足度」は、前回より3.3ポイント減少したものの93.8%であり比較的高い満足度をいただいた。 (2)意見箱への投書は、それぞれについてその内容と当館の見解・対応をまとめ、公開している。
行政目的の達成 (1)東京都スポーツ推進取組み (2)2020大会機運醸成 (3)工事への積極的対応		(1)様々な方々(年齢、障害の隔てなく)がスポーツに親しむきっかけとなるよう、「からだ動かす習慣を始めましょう」と題し、トレーニングルームを使用したレッスンを試行。気軽に来館し運動ができるよう配慮し、4種目、45~60分間の無料レッスンを平均月間8回実施した。 (2)東京2020大会気運醸成として、関連動画9本を都から借用し、当水泳場デジタルサイネージを活用して開館中に放映した。また、当水泳場が東京2020大会水球会場であることから、記念撮影用のパネルや水球公式ボールを設置するなど、水球を肌で感じられる演出も行った。 (3)前年度から継続した外構とエレベータ新設工事(元年9月完了)や東京2020大会のオーバーレイ先行工事(2年2月~)については、開館しながらの工事であったため、都、組織委員会、工事業者と施設利用状況等の情報共有を綿密に行うなど、工事の円滑な進行と施設の安全確保に努めた。	